

これからコンテストに参加しようと思われる方へ

運用編

電話によるコンテストでの簡潔な交信例

①は CQ を出す側 ②はその局を呼ぶ側

自局のコールサインはアルファベットと数字をゆっくり発音するか
フォネティックコードも併用してください

① CQ (熊本) コンテスト JA6xxx JA6xxx 県内局 (市町村名等も可)

② JA1xxx (早口でなく、ゆっくり 1 回で十分です)

① JA1xxx 594302

② QSL 5910

① QSL (ありがとう) JA6xxx

① CQ(熊本) コンテスト JA6xxx JA6xxx 県内局

電話の場合相手からの貰ったナンバーを復唱される方もいらっしゃいますが
コンテストでの簡潔な交信では受信したナンバーに確信がない場合以外は復唱不要です。

電信によるコンテストでの簡潔な交信例

① CQ KM TEST JA6xxx

② JA1xxx

① JA1xxx 5NN4302

② R 5NN10

① R TU JA6xxx

① CQ KM TEST JA6xxx

これらはあくまでも参考例ですので出来る限り簡潔な交信を意識しながら交信されると
効率が上がってリズムカルな交信になり呼ぶ側も呼ばれる側も楽しめます。

また、CQ 出して呼ばれ続けている場合(パイルアップ)に自局のコールサインを殆ど送出しない局が時々
ありますが

コンテストでの国際的な流れとして毎交信自局のコールサインを送出することが規則に謳ってあり標準
となっています。

当コンテストでは、毎交信毎に自局のコールサインの送出を推奨しています

ペナルティは設けていませんが模範的なコンテスターを目指される方は参考にしてください。

推奨： 交信終了時に 「R TU JA6xxx」 「QSL ありがとう JA6xxx」と自局のコールサインを毎回
送出

推奨しない： 呼ばれ続けて途切れるまで 「R TU QRZ?」「 QSL ありがとう QRZ?」のみで自局の
コールサインを殆ど送出しない

ロギングソフト編（コンテストで利用されているログソフト）

[CTESTWIN JAでの定番](#)

[N1MM 海外でもユーザーが多く英語環境だがJAのコンテストにも対応](#)

[ZLOG 令和バージョン 機能を充実して再登場](#)

コンテストやロギングソフトに関する用語等、一般的なご質問はこちらまで [mail](#) メールで対応できることは対応させていただきます。

ロギングソフトのインストール方法、使用方法等は
夫々ロギングソフトのマニュアルを一度はご確認ください。
又パソコンの基本ソフト OS に関するご質問はご遠慮ください。

コンテスト終了後のログの修正について

コンテスト終了後のログの修正(相手のコールサイン、受信したナンバー) は認められないのが一般的です。

例えば、第三者からの情報で修正 ⇒ NG

終了後に知り合いから「先ほどはコンテストで交信ありがとう！5943012 って送ったけど？」とツイッターや facebook で言われて

ログを見たらコールサインまたはナンバーをミスコピーしていたので修正した ⇒ NG

交信時のタイピングミスをメモっておいてコンテスト終了後に修正した ⇒ 微妙に OK

できればコンテスト中に修正

SO2R Single Operator 2 Radio について

例えば、コンテストの運用で 2 台のリグを交互に操作して 2 バンドで運用する SO2R と呼ばれるテクニックがあります。

シングルオペレーターの場合殆どのコンテストで「同時に 2 波の送信は認められていません」

SO2R では、同時ではなく 2 バンドを瞬時に切替えて交互に運用しますので、第三者がその 2 バンドを聞いてみると同時に運用(送信している) 様に思われることもあります。

もし同時に 2 バンド聞ける方は注意深く聞いてみると同時ではなく交互に送信されているのが分かると思います

ただ SO2R をやると交信局数が 2 倍になるモノではなくその時の条件次第ですが 2 割程度の増加と考えて良いでしょう。当然マルチ獲得数も増えます。